

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ちばけんりつなりたこくさいこうとうがっこう				②所在都道府県	千葉県
27～31	①学校名	千葉県立成田国際高等学校					
③対象学 科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	各学年	
	普通科	200	204	203		607	普通科5学級・国際科3学級
国際科	120	123	120		363	合計970人	
⑥研究開 発構想名	成田発！2020年に向けてアジアとの共生を担うグローバル・リーダーの育成						
⑦研究開 発の概要	<p>急速に進行する「グローバル化」の中で、今後成長が大きく期待されるアジア諸国・地域との共生は日本にとって不可欠である。そこで、教育課程に官民学の協力の下に課題研究に取り組む新たな教科科目を増設し、日本の玄関口の成田からアジア諸国・地域に対し、「持続的発展」に向けた提案を発信できるグローバル・リーダー育成を目指す。</p>						
⑧ 研究開 発の 内容等	⑧ -1 全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>世界中が注目する東京オリンピックが開催される2020年に向けて、アジア諸国・地域と協働してアジア全体、ひいては世界の持続的発展に貢献できるグローバル・リーダーを育成する。そのために、アジア地域を中心に国際社会に関する幅広い教養と共に、「課題発見・問題解決能力」、「論理的思考力」、「多様な人々と協働するコラボレーション能力」、「相互理解を図るコミュニケーション能力」、「具体的な解決を図る企画力」、「異文化に対する受容性」、「日本文化理解と発信力」の7つの資質・能力を兼ね備えた人材を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は日本の玄関口としてこれまで物流や情報発信の拠点としての大きな役割を果たしてきた成田国際空港を擁する成田の地にあり、開校当初から、空港と地域との共存に向き合い、成田市内の小中学校や行政機関、企業等と、国際教育をキーワードに数々の取組をした実績がある。結果として、本校の生徒は、様々な国際交流行事や地域貢献活動に積極的に取り組み、協調性があり、異文化や国際交流への関心が高い。また、これまでのSELHi事業等の実績により、生徒は高い語学力を有している。そこで、これまでの実績を発展させ、行政・民間・大学との連携の下に、課題研究を核として、従来の教育活動を再構築することにより、上記の目的にあるグローバル・リーダーが育つと考える。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>本校ホームページ、研究報告集の作成、さらに、県総合教育センターにおける職員研修、千葉県や成田市の行政関係委員会、連携大学等での発表を通じて広く普及する。また、公開型の課題研究発表会を開催し、多くの高校生や一般の人々と成果を共有する。</p>					
	⑧ -2 課題 研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>日本はアジア諸国・地域の人々と互いを尊重しつつ、平和的・健康的な生活を営みながら、協働してアジア全体の持続可能な発展をめざす必要がある。そこで「アジアの中での共生」というテーマの下、切り口として観光、環境、教育の3領域を設定し、課題研究を行う。</p> <p>学校から生徒に提示する具体的研究の例として、アジア諸国・地域における「国際空港を拠点としたツーリズムの振興」「経済開発に伴う大気汚染や水質汚染」「貧困や性別による教育格差の改善」等に関する研究が挙げられる。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>スーパーグローバル大学の千葉大学、国際化に重点を置く麗澤大学、明海大学、神田外語大学の各大学に加え、千葉県・成田市、及び民間企業との連携の下、教育課程内に新たに課題研究科目として「グローバルスタディズ（以下GSとする）課題研究」を設定する。</p> <p>① 1年次は、「GS 課題研究基礎（増設必修科目1単位）」において実施する。前期は課題</p>					

	<p>研究の取組方法に関する学習，研究テーマに関する知識獲得を目的に，連携大学・機関によるリサーチの仕方・論文の書き方，テーマに関する講演を実施する。後期はテーマに応じてグループ編成を行い，現状のリサーチ，解決すべき課題のブレインストーミング，課題の設定までを目標とし，課題研究レポートを作成する。さらに，研究の過程において，生徒による実地見学・調査・体験ができるよう，国内フィールドワークとして，外国人コミュニティや観光地，国際機関・NGO（JICA等）などを訪問する。</p> <p>② 2年次は，「GS 課題研究発展（増設必修科目1単位）」で課題研究に本格的に取り組む。1年次に引き続き連携大学・機関によるグループへの指導を通じ，現状や問題を多面的に分析しながら解決方法を模索する。また，情報収集・調査を目的に海外フィールドワークを海外大学・高等学校や関連企業・機関，施設で実施する（マレーシア，カンボジア，シンガポール）。</p> <p>③ 3年次は，「GS 課題研究活用（新設選択科目2単位）」において，2年次に取り組んだ課題研究を発表，提案できる内容にまとめて，英語で校内・校外（連携大学，成田市や千葉県の関係委員会等）で発表する。また，姉妹校（韓国・果川外国語学校）とは研究成果発表会を行う。</p> <p>以上の検証においては，記録や観察メモ等を用いた形成的評価を行いながら，質問用紙調査の分析，論文，発表，ポートフォリオの評価を行う。また，検証をより正確なものにするために，千葉大学と協働して検証方法を研究することを検討する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特になし。</p>
<p>⑧ -3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 本研究における課題研究以外の研究開発を「GSプログラム」と呼び，以下①～④の多様な教育活動を展開する。</p> <p>①全教科での授業改善を行い，生徒主体のアクティブ・ラーニング（探究型授業及び言語活動の充実）に取り組み，論理的思考力やコミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を高める。</p> <p>②日本文化発信プロジェクトとして，1年生外国語・英語必修科目において，成田についてリサーチし，授業内や留学生を対象に発表する。また，3年生対象の選択科目「GS日本文化」（2単位）において日本の伝統文化（書道・茶道・箏曲等）を学び，その成果を成田国際空港を訪れる外国人等に発信し，日本人としてのアイデンティティを育成する。</p> <p>③ボランティア活動，インターンシップを通じて，具体的な解決を図る企画力を育成する。</p> <p>④海外大学や国内スーパーグローバル大学進学希望者のための支援（海外留学に必要な情報提供や語学検定試験の対策等）を強化する。以上の検証評価に，質問用紙，レポート，ポートフォリオ，海外大学・国内スーパーグローバル大学進学者数・語学検定試験のスコア等を活用する。また，この検証についても，千葉大学との協働研究を検討する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <p>①全学年の希望者を対象に，課題研究に資するテーマについてGS教養講座（グローバル・アーツ）を開催する（土曜・年数回）</p> <p>②帰国・外国人生徒の積極的な受入れ（海外帰国生徒・外国人の特別入学者選抜）</p> <p>③長期留学生の積極的な受入れ（1年間）</p> <p>④留学生との共通課題を下に行うディスカッション</p> <p>⑤全国高校生英語ディベート大会，模擬国連等各種大会・コンテストへの参加</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成26年度本校はSGHアソシエイトに指定された。アソシエイトの活動は別紙様式3に記載。</p>

ふりがな	ちばけんりつなりたこくさいこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	千葉県立成田国際高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	600人
	SGH対象生徒以外:	300人	300人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 地域ボランティアや外部研修会, 資格試験受験などを通して, 自主的に社会貢献活動や自己研鑽に取り組む生徒の増加を促す									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数（学校企画の研修のうち、希望制のものを含める）									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	50人
	SGH対象生徒以外:	43人	40人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: SGH研究開発による本校の教育により, 留学あるいは海外研修に行く生徒数の増加を図る									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	20%	20%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGH研究開発による本校の教育により, 留学を希望したり, 国際的に活躍したいと考える生徒の増加を促す									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	10人	10人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 課題研究を契機に, 公的機関のコンテスト等や公益性の高い国内外の大会に参加する生徒の増加を促す									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:	25%	25%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGH研究開発による本校の教育により, CEFRのB1～B2レベルに到達する生徒の増加を図る									
在学中に国際機関, グローバル企業等でインターンシップを経験する生徒数									
f	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:	10人	10人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: インターンシッププログラムの開発により, 国際機関・グローバル企業でインターンシップを経験する生徒の増加を図る									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		56%	56%	%	%	%	%
目標設定の考え方: SGH研究開発による本校の教育により, 国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合の増加を図る								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:							10人
	SGH対象生徒以外:		3人	3人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 海外留学支援により, 海外大学へ進学する生徒の増加を促す								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 本校生徒の半分が, 課題研究に関連した分野を大学で専攻することを目標とする								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	120人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: SGH研究開発による本校の教育を受けた生徒が, 卒業後も世界を視野に学習することを目標とする								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							20人
		0人	人	人	人	人	人	
	目標設定の考え方: 課題研究により, 国外の研修参加者数の増加を促す							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							40人
		0人	人	人	人	人	人	
	目標設定の考え方: 課題研究により, 国内の研修参加者数の増加を促す							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							8校
		4校	校	校	校	校	校	
	目標設定の考え方: 現在姉妹校を提携している高校(4校)に加えて, 海外大学・高校との連携を図る							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							60人
		0人	人	人	人	人	人	
	目標設定の考え方: 定期的に継続的に大学教員・大学院生の指導を受けることのできる体制を構築する							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							20人
		0人	人	人	人	人	人	
	目標設定の考え方: 年に4回程度機会を設定する							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							35人
		9人	人	人	人	人	人	
	目標設定の考え方: 課題研究により, 公益性の高い国内外の大会に参加者の増加を促す							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							15人
		10人	人	人	人	人	人	
	目標設定の考え方: 現状よりも多くの帰国・外国人生徒の受け入れを図る							
h	先進校としての研究発表回数							5回
		0回	回	回	回	回	回	
	目標設定の考え方: 本校独自の発表に加え, 外部と連携した発表を複数回設定する							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							○
		△						
	目標設定の考え方: 姉妹校や提携校の生徒がホームページを閲覧できるよう, 外国語によるホームページを整備する							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)			960	960	960	960	960
SGH対象生徒数			320	640	680	680	680
SGH対象外生徒数			640	320	280	280	280